



中高生とともに差別と闘う

『人を想う』とは

吉成タダシ



先日、受け持っている二年生で、今年度最後の学年全体人権学習を実施しました。二学期に行った平和学習の流れで、中国残留日本人孤児問題と在日コリアン問題をテーマに行ったのですが、各学級での学習のもとに、学年全体で語り合う時間となりました。ちょうど年度末や卒業式前ということもあり、テーマを通して、「人を想う」ということについて語り合ったのですが、本当に心あたたまる時間となりました。

「慮る（おもんばかり）」

「F先生が授業中に何度も話してくれたんですけど、「相手の気持ちを慮る」という言葉に、すごい「あつ」って思っています。当たり前ですが、相手のことを考えたらうえで、何を言うかっていうのを自分がしっかり考えないと、会話が成立しないと思えました（Oさん）」

「慮る」という発言に、私はすぐに反応してしまいました。理由があります。以前、とことん人権学習をしてきたながら、この「慮る」ということが十分に生きていないと感じた場面があったからです。

ある年、高校受験のギスギスした雰囲気を通す年度末。すでに進路が決まっている者と、まだ決まらずにジリジリした気持ちのなかで毎日経過している者が、同じ教室に同居していました。毎年、日本全国、どこにでも見られる年明けの風景です。けどそこは、それまでの人権学習が本当に試される瞬間でもあるよ

うに思います。互いのことを深く知り合い、認め合い、仲間として強く繋がっていかうとするなら、最後の最後まで支え合い、励まし合う場面です。今の自分をさらけ出し、それでもなお繋がっていかうかどうかを試される場面です。

ちょうどその最中に、学年全体で人権学習をしたのですが、まだ進路の決まっていない者たちが苦しい胸の内をさらけ出していくのに対して、すでに進路が決まっている者たちは終始無言でだんまりを決め込み座っていたのです。その姿が私には、「我関せず」のように見え、「それはおかしいだろ！」と怒りをぶちまけたのでした。それに対して、進路が決まっている者たちは猛反発をしてくれました。私は出張があつて中座せざるを得なかったのですが、それが、「勝手に怒って出て行った」とみなされ、さらに火に油を注ぐことになってしまったのです。

その後のことは、伝え聞いたり録画していたビデオを見て知るしかなかったのですが、結局のところ、日ごろ発言をしないような者たちまでもが発言を繰り返し、互いのことを改めて見つめ直す時間へと変わっていったとのことでした。その場面をビデオで見ていた私のなかに浮かんだ言葉が、この「慮る」でした。人は「遠く」のことには美しく思われます。身近なワガコトのように思っているようでも、いざ「遠く」が「近く」になってくれば、逃げてしまいう人だっています。でもそこで

踏ん張って自らを振り返り、「本当の姿」あるべき姿とは、自分のありたい姿とは何か」を考え律することができるとも、また人です。そのときに、「慮る」ことが大切なのだと思います。今、目の前にいる子たちにも、ぜひ、極限状態で「慮る」ことの大切さを体感してもらいたい。そう思いました。

「人を想う」とは

語り合いは、テーマを通して、それぞれの想いを語り合う時間へと移っていききました。

「今年の修学旅行の時に友達といろいろあって、その友達関係が崩れて。そのときに思ったのは、やっぱり相手の立場に立つて言葉を発するっていうことで、自分が心の中で思っていることをすべて言葉に発しているっていうわけじゃなくて、自分の言葉一つ一つに責任を持って、これは言っていないことなのか、いけないことなのかを判断する必要があるんだなって感じたのと、もうちょっと相手のことを見てあげたら、こんなことがなかったのかなって思っていました（Fさん）」

「人を想う」という問いかけを考へてるとすごく難しく、何回も読み返して。この『想う』っていう漢字は、なんでこっちなのかなっていう方に至って。もう一個の『思う』っていう方もあるけど、なんでこっちなのかなって考えたときに、『想う』の漢字の上が相手の『相』で、下が『心』で、相手を想うこと、心から

想うことが、『人を想う』ってことになるのかなって考えて。私は自分の損得を関係なく、相手のためにっていう気持ちを覚えることが、『人を想う』ことかなって考えました。

私も修学旅行の前に友達とかいろいろいっぱい話して。修学旅行中も友達といっぱい話して。自分の思っていることとかを、それは傷つけるかもしれないけど、思っていることを素直に伝えられることが、私は大切だと思いました。『人を想う』って、人を傷つけるかもしれないけど、自分の気持ちを言うことも大事で。けど相手の気持ちを聞くことっていうことが、『人を想う』ことにつながるんじゃないかなって、私は思いました（Mさん）」

日頃あまり手を挙げない仲良し女の子二人組のこの発言は、他の生徒を揺さぶっていたことが、後の感想で分かりました。他人に言われて気付くこともありすが、自らふりかえって気持ち変わる方が、人は変われやすいものです。こういった学習の場は、ちょうどそんなチャンスになるのだと思います。人が変わろうとする姿を通して、「自分も変わろう！」と思えるのだと思います。

どんな人権課題も学ぶことは必要であり大切ですが、結局のところは、『今』の、「身近なところ」に落とし込んで学ぼうとしなければ、ただ資料が目の前を通り過ぎるだけ、になっちゃうのだと思います。

次号も、少し続けさせてください。